

日中友好のしんぶん

# 大阪と中国

●編集・発行

特定非営利活動法人

大阪府日本中国友好協会

〒543- 大阪市天王寺区大道5-4-6

0052

大阪スカウト会館2F

TEL06(6770)0080 FAX06(6770)0707

●発行日 2014年11月1日 No.234

●定 価 200円

宛先：大阪府日中(jcf@mail.infomart.or.jp)

<http://www.kaigisho.com/jcf>

題字は王个簪氏

特集

## 第14回日中友好交流会議

大阪開催 2014年9月22日～23日



9月22日 開会式で挨拶をする日本側団長、酒井哲夫(公社)日中友好協会副会長

### ●主な内容●

◇第14回日中友好交流会議を終えて ごあいさつ

◇基調報告(日中両国代表)

◇大阪宣言

◇前回貴陽市以来の大阪開催までの経過

◇友好交流会議レポート(写真を中心に)

◇記念講演内容要旨

◇友好都市提携(3地区協会)での交流レポート

◇実行委員会メンバー・ボランティアからの会議を終えての感想

## 日中友好交流会議が成功のうちに終わりました 皆さん ありがとう

大阪府日中友好協会

会 長 谷 井 昭 雄

会員の皆さん、日中友好交流会議が無事に、そして大きな成果をもって終了することができ、ありがとうございました。ご支援、ご活躍いただいた皆さんに心から感謝いたします。

代表団が帰国される朝、お会いした謝元中国人民对外友好協会副会長から「すばらしい交流会議で、大成功でした。昨夜、中国の各代表とも話し合いましたが、来てよかったと皆さん満足していました」との言葉をいただき、また王秀雲中日友好協会副会長も「今回の交流会議は大成功でした」と話され、笑顔で強く握手してお別れしました。

この成果は、実行委員会をはじめ会員の皆さんが本部の方針の下、大阪府下の地区協会、近畿各県の友好協会や大阪府、大阪市、警察など行政関係、各団体、企業、とくに地元在住の中国の皆さんや留学生の方がたの幅広いご理解とご協力の賜であります。

加えて、実行委員会の交流会議開催の基本精神である「大阪のおもてなしの心」の実践でもありました。空港での受入れ、開会式の福娘、休憩時のティーサービス、懇親会でのさまざま催しなどいたるところにこの「心」が表れていました。

要約すれば、

- 1、 会員の結束
- 2、 幅広い協力の輪
- 3、 気くばりの運営

の成果です。連日たいへんご苦勞をかけたことが、当協会はこれらの体験によって大きな自信を得たと思います。

ご支援、ご協力をいただいた行政をはじめ諸団体の皆様ありがとうございました。

最後に、今回の大阪開催にご尽力いただいた小田眞弘理事長に敬意を表します。

日中友好は単なる掛け声や期待だけでなく、いろいろな活動を通じて両国国民の幸せを招き両国が共に発展することにつながらなければなりません。それには一人の力だけでなく多くの力を結集することです。今回の経験と成果に自信をもって共にがんばりましょう。

会員の皆さんご苦勞さまでした。

## お礼のあいさつ

(公社)日本中国友好協会 理事長 岡崎 温

第14回日中友好交流会議が円満に終了致しました。日中関係が大変厳しい環境の中、中国から謝元・中国人民对外友好協会副会長、王秀雲・中日友好協会副会長はじめ中国各地から130余名の代表と日本各地の日中友好協会のメンバー 200余名が参加しました。これまでで最大規模の交流会議となり、日中間の民間友好交流にとって大きな貢献ができたと思います。この交流会議は全協会挙げての事業でありましたが、とりわけ地元大阪の皆さんのご努力、ご奮闘に心から感謝申し上げます。

この交流会議では、「現在の日中関係が大変厳しい、このような困難な時こそ、日中友好の旗印を高く掲げ、未来に自信をもって民間交流を推進すべきだ」という共通の認識に達しました。また、日中友好交流をさらに発展させるため、民間の力と英知を結集し、日中関係の改善のために共に努力することを確認しました。そして、この会議での「大阪宣言」の採択は、交流会議史上はじめてのことであり、日中友好交流会議の新たな前進と成果であったと思

います。初めての試みであった「経済懇談会」も成功でしたし、藤田正憲大阪大学名誉教授の記念講演「環境対策 日本の経験」も、素晴らしい内容でした。

2年前貴州会議において、大阪府日中友好協会が第14回日中友好交流会議の大阪開催に立候補されて以来、この会議の主管団体として、谷井昭雄会長のご指導のもと、役員・会員が一丸になり、2年間にわたって準備、運営に多大なご尽力を下さった結果、立派な成功を収めることができたことに、改めて厚くお礼申し上げます。

大阪の交流会議の成功で改めて感じました。事業を成功させるために、もっとも重要なことは、組織の健全化（人の力）と財政の健全化であります。大阪府日中友好協会は、実践を通じて、全国に活動の模範を示されました。

大阪府日中友好協会のますますのご発展をお祈りし、引き続き、全国の協会の先頭に立って、日中友好事業を牽引して頂きますようお願い致します。

### 大阪開催実行委員会 委員長 青木 俊一郎

れた成果であると敬意を表する次第である。

私自身はたまたま9月3日と17日に日中経済貿易センターの仕事もかねて北京で中日友好協会を二度訪問し、王秀雲副会長に谷井会長の発案である「大阪は日本のビジネスセンターであるので、ぜひこの機会に同時に日中経済懇談会を実施したいという」意向を具体的にお願ひし、当日双方20名の関係者が短時間であったが実現できたことは次回以降のプログラムに組み入れていただければきっかりになったと思う。

また、2か月前から藤井事務局長と共に関経連のサポートもいただいて30社弱の企業や大学を谷井会長の親書を携えて訪問し、予想以上のご支援をいただいたことは感謝に堪えない。

1982年、宇都宮徳馬日中友好協会会長と中日友好協会廖承志会長により二年毎に一度開催されてきた日中友好交流会議が初めて大阪で盛大に行うことができた。

中国側から132名、日本側から230名の双方の本部及び各地区友好協会の代表者が大阪に集結し、尖閣と靖国に代表される厳しい政治情勢の中、「民間交流の新たな高まり」を求めて真剣な討論が行われ、「大阪宣言」が発表されたことは真に意義のある大会となった。

谷井会長の細部に亘る気配りのきいたリーダーシップの下で、それぞれの実行委員が専門性を充分に発揮してフットワークよく見事に所定の役割を果たさ

## ● 第14回日中友好交流会議 ●

### 基調報告 (要旨)

(公社) 日本中国友好協会

副会長 宇都宮徳一郎

日中友好交流会議は、両国の国交正常化10周年の1982年に当時の協会会長であり私の祖父である宇都宮徳馬と、廖承志中日友好協会会長が「固定的な交流のパイプをつくろう」と発案されました。

そのころは、両国民の友好感情がピークを迎えていた。一方、困難を乗り越え努力してきた日中両国の友好団体やその関係者にとっては、明確な交流の意義や目標を再構築する必要がありました。

交流が縮小する厳しい環境下においても、私たちは「交流がなければ友好などあり得ない」という強い気持ちを持って、日中の草の根の民間交流の意義、そして、「二度と戦争はしない」という日中友好の「原点」をしっかりと理解し、地元自治体とも連携し友好交流を推進していくべきだと考えます。

特にこれまでの交流の「かたち」とらわれず、若い世代の熱意と、経験ある先輩方の知恵を融合し、在日の中国人の皆さんとも手を結んで、「明るく、楽しく、参加する興味がわくような面白さも兼ね備えた日中友好の集いの場」を提供できるよう努力し、子々孫々の友好のため、若い世代も含めた会員の増加と交流活動の活性化を目指していきたい。

現在の日中関係は、政府間の関係悪化のみならず、一部の世論調査では、相手国に好ましくない感情を持っている国民の割合が、日中両国ともに80%以上というアンケート結果が出ています。

そのような現状に鑑み、もう一度両国の民間の草の根の交流の在り方を考える機会を創る、そしてお互いに直接顔を合わせて Face to Face で話し合うべきです。すなわち、日中両国は今後具体的にどのように民間交流を進めていくべきかについて、現状の課題や交流活動の実績を共有しながら率直に意見交換をしたいと思っています。

日中間の民間交流をさらに高めるために必要とされる4つの点について挙げさせていただきます。

第1に「地方都市間の交流の活性化」

東京都と北京市の首都交流は大きく動き始めた。

第2は、「青少年交流の促進」

民間交流を高めるためには、次世代を担う青少年の交流が最も重要です。

第3に、「災害や環境保護における相互支援と相互協力」

最後は、「国民間の相互理解の増進」

現在の日中両国は互いを非難し合う、ネガティブキャンペーンが主流となっている。評価すべきことはお互いに素直に評価し、間違っていることは指摘し合う関係づくりが大事です。

最後になりますが、私の個人的なエピソードをご紹介します。私の初訪中は、89年天安門の6・4事件後の8月に祖父、父との3代での訪中でした。周囲のものが反対する中、祖父は「こんな時だからこそ、孫も連れていくのだ」と言いました。大学生であった私は、あの時連れて行ってもらえたことが今の私の日中友好の原点です。祖父に今でも感謝しています。もう一人、祖母から受けた影響もあるかもしれません。祖母の名前は遼子といい、中国の東北生まれでした。1989年4月に開いた自宅での観桜会で、祖母の挨拶を聞く機会がありました。すでにガンで体が弱っていたにもかかわらず、絞り出すように澄んだ声で、「日本は日清戦争から半世紀、中国でたくさんの悪いことをした。それにもかかわらず戦後中国人は日本を許した。そして多くの日本人残留孤児を救い育ててくださった。この恩に感謝し日中友好は何世代先にも続けていかねばなりません」と話しました。祖母はその1年後に亡くなりましたが、私は今でもその言葉を大事に心にとどめておるところであります。

## 基調報告 (要旨)

中日友好協会

副会長 王 秀 雲

今回の会議は中日関係が難局に陥って以来、両国民間で初めて行われた大規模な友好交流会議であります。困難な時期であるからこそ、民間が役割を果たすべきです。本日、中日双方の代表は、大阪に集い、新たな情勢下で、如何にして「民を以て官を促し、中日関係を促進していくか」について経験を話し合い、知恵を出し合います。

まず、この二年間、以下の四つの面で中日双方が協力して、幅広い影響と重要な成果を収めたことをご紹介します、共に分かち合いたいと思います。

### 一、両国の友好協会は誠意を以て協力し、中日友好の旗印を断固として高く掲げること

近年、中日関係が厳しい困難に直面する中、われわれは友好信念をより一層固め、伝統的な優位性を発揮して交流活動を展開し、実際の行動を以て両国関係の改善に向け社会と民意の基礎を固めました。

### 二、日本政界と交流を行い、中日関係の大局を大切に守ること

日本政界の中日関係の大局に対する認識を深め、双方の政治・安全保障面の相互信頼の再建に積極的な役割を果たしました。

### 三、経済貿易や地方政府間協力を推進し、共通利益の絆を強固にすること

国交正常化以来、経済貿易と地方政府間の実務協力は両国民に重要な福祉をもたらしました。お互いの現実的利益が深く融合することは、両国関係が試練に耐えうる重要な基礎であります。

### 四、青少年交流等の人文交流を拡大し、中日友好を世代代まで続けていくこと

中日関係の未来は若い世代にかかっています。当面の両国民感情は国交正常化以来の最悪の状況と言えますが、実際の交流を通じ、それは両国民が中日関係の重要性を理解していないことではなく、お互いへの認識と理解にかなりの偏差があったためであると分かりました。われわれは、相互理解の増進を己の任

務とし、弛まず青少年を主体とする人々の心の琴線に触れるような活動を展開しているところであります。

中日国交正常化以来40数年、両国関係の主流は友好協力であります。

歴史の経験と教訓が繰り返し証明したように、中日は「和すれば共に利益をもたらし、争えば共に損なう」、両国は決して対立と対抗というお互いに傷つく道を歩んではいけません。ましてや戦争に走るといふ歴史の悲劇を二度と繰り返してはいけません。

この場をお借りして、私からいくつか提案をさせていただきます、お互いへの励ましになれば幸いです。

一、友好の旗印を高く掲げ、基本原則を把握すること。中日の四つの政治文書の原則と精神に沿って事を行えば、中日関係は順調な発展ができます。

二、互惠ウィンウィンを堅持し、共同利益を固めること。中日両国は地理的に近く、文化面で通じ合い、経済的相互補完性も強く、利益も融合しています。両国民に絶えず中日協力の着実な恵みを与え、またより多くの両国民衆が中日関係の発展を支持するように努力しなければなりません。

三、交流の隊列を拡大し、友好事業の後継者を育成し、引き継いでいくこと。この貴重な財産は、常に革新されることでなければなりません。近来、両国の友好協力が共に展開している新ラウンドの青少年交流は高い注目を浴びており、今後も引き続き協力を強化していくことに大いに期待しております。

困難は飛躍を意味します。チャレンジはチャンスと居合わせします。われわれは中日友好事業という正義の道をより一層広め、両国民の友情をより一層厚い、末永いものにする歴史的な使命を担っています。ぜひともこの会議を契機とし、民間の力と知恵を積極的に生かし、思う存分に話し合い、英知と力を出し切り、中日関係の改善と発展を促進するため新たな努力と貢献をしていこうではありませんか。

## ● 第14回日中友好交流会議 大阪宣言 ●

日本と中国の全国津々浦々から日中双方300名を越える人々が大阪に集い、9月22日から23日にかけて、第14回日中友好交流会議を「民間交流の新たな高まりを！」というテーマのもとに開催致しました。

この友好交流会議は、日中双方の友好協会の宇都宮徳馬、廖承志両会長の発意で生まれ、第1回が1983年北京で開催されました。日常的に日中友好交流に携わるもの同士が、率直に問題点を語り合い、友好事業を発展させたい願いからでありました。約30年にわたり、日中関係の紆余曲折、山あり谷ありの道のりの中で、大きな役割を果たして参りました。

現在日中関係はご承知のとおり歴史問題と領土問題により、この数年大変厳しい状況下にあります。日中両国民の国民感情も、冷え切っております。私たちは、一衣帯水の隣国である日中両国が、このような状態であってはならないとの思いからここ大阪に集まりました。

思えば、両国の先輩は歴史的教訓に基づき、国交正常化の実現のため、犠牲を恐れず心血を注ぎました。長年にわたり民間交流に尽力してきた私たちは、歴史を振り返り「争えば共に傷つき、和すれば共に栄える」という言葉をかみしめ、日中友好が両国民の根本的利益に合致することを重く認識しております。

私たちは、歴史をかみしめ、未来を展望し、豊多彩な民間交流を、着実に、力強く推進し、「相互に温かく、思いやりのある」友好交流ができる新しい局面を作りだす決意であります。

さらに、私たちは、日中両国関係に問題が起これば、日中共同声明をはじめとする4つの重要な文書の原則と精神に拠りどころを求めて、早急かつ適切に対処すべきだと思います。現在、両国は共に叡智を出し合って、早急に難局を乗り越え、日中関係が健全且つ安定的な発展の軌道に戻れるよう努力しましょう。

2014年9月23日

第14回日中友好交流会議

(日本・大阪にて)

## ● 第14回日中友好交流会議 大阪開催に至る経過 ●

2012年5月24日～25日

貴州省貴陽市での交流会議にて、次回の2014年には大阪での開催を表明し、満場一致で承認された



2013年

7月 地区会長会議、評議員会 交流会議の説明

8月29日 2013年度第3回理事会

大阪開催の概要、日時：2014年5月12～13日、参加者 200～250名、会場：大阪国際会議場、大阪開催成功に向けて準備委員会を設置

9月2日 第1回準備委員会

分散会のあり方、共同声明必要、中国の求めているもの（環境、介護）、行政の協力、事例発表

10月4日 第2回準備委員会

＜谷井会長からの意見＞

- 中国との交流再開のシンボル、本格的な交流再推進の起爆剤に
- 民間団体、政財官界を巻き込んで、また将来のメリットを産むような催しに
- 内輪だけでなく、広く市民にアピールを

10月22日 北京で記念シンポジウム

2014年5月の交流会議開催に努力

11月14日～15日 西日本実務者会議

交流会議の説明と関西ブロックへ協力要請

11月末～12月初 中国側から延期要請。中国人民対外友好協会創立60周年と時期が重なるため



12月13日 会長が程大使と面談、開催時期未定ながら協力要請し、大使館としても支援する

12月16日 本部常務会、日程を9月22日～23日に変更、会場は国際会議場を予約

2014年

2月21日 大阪府日中 第4回理事会

交流会議は9月に、大阪国際会議場で開催

3月13日 中日友好協会代表団、全国本部と懇談。日程9月で合意、中国各地方に連絡する

3月24日 2013年度第3回地区会長会議

交流会議の会場について国際会議場から他の会場を探すと提案

4月17日 評議員会、交流会議の会場は再検討中

4月22日 大阪府日中2014年度第1回理事会

交流会の会場はリーガロイヤルNCB、懇親会はリーガロイヤルホテルと提案、了承された

4月25日 全国本部から大阪府日中へ会議の主管の依頼書。開催日 9月22～23日

会場：未定 参加者：日中合わせて200名

5月31日 大阪府日中 通常総会

交流会議について説明

6月4日 第1回実行委員会

これまでの準備委員会から実行委員会へ。総会を経て、会議場について宿泊ホテルからの距離、警備面も考慮して再検討開始

6月20日 第2回実行委員会

9月22日の会議会場は大阪国際会議場で決定(276名まで収容可能) 実行委員会メンバーの役割分担決まり、エンジン全開で活動開始

7月4日 第3回実行委員会

7月8日 関西経済連合会と会議

交流会議について特に経済界との懇談会及び、会員企業からのご支援について相談

7月17日 第4回実行委員会

実行委員会組織の最終決定

7月24日 2014年度第1回地区協会会長会議

交流会議開催要項、実行委員会組織の説明・承認、地区協会からの協力確認

7月25日～8月11日 各企業へ交流会議へのご協力お願いの訪問開始

7月30日～8月2日 全国本部、訪中

8月4日 第5回実行委員会

8月19日 第6回実行委員会

参加申し込みが当初想定を大きく超える見込み

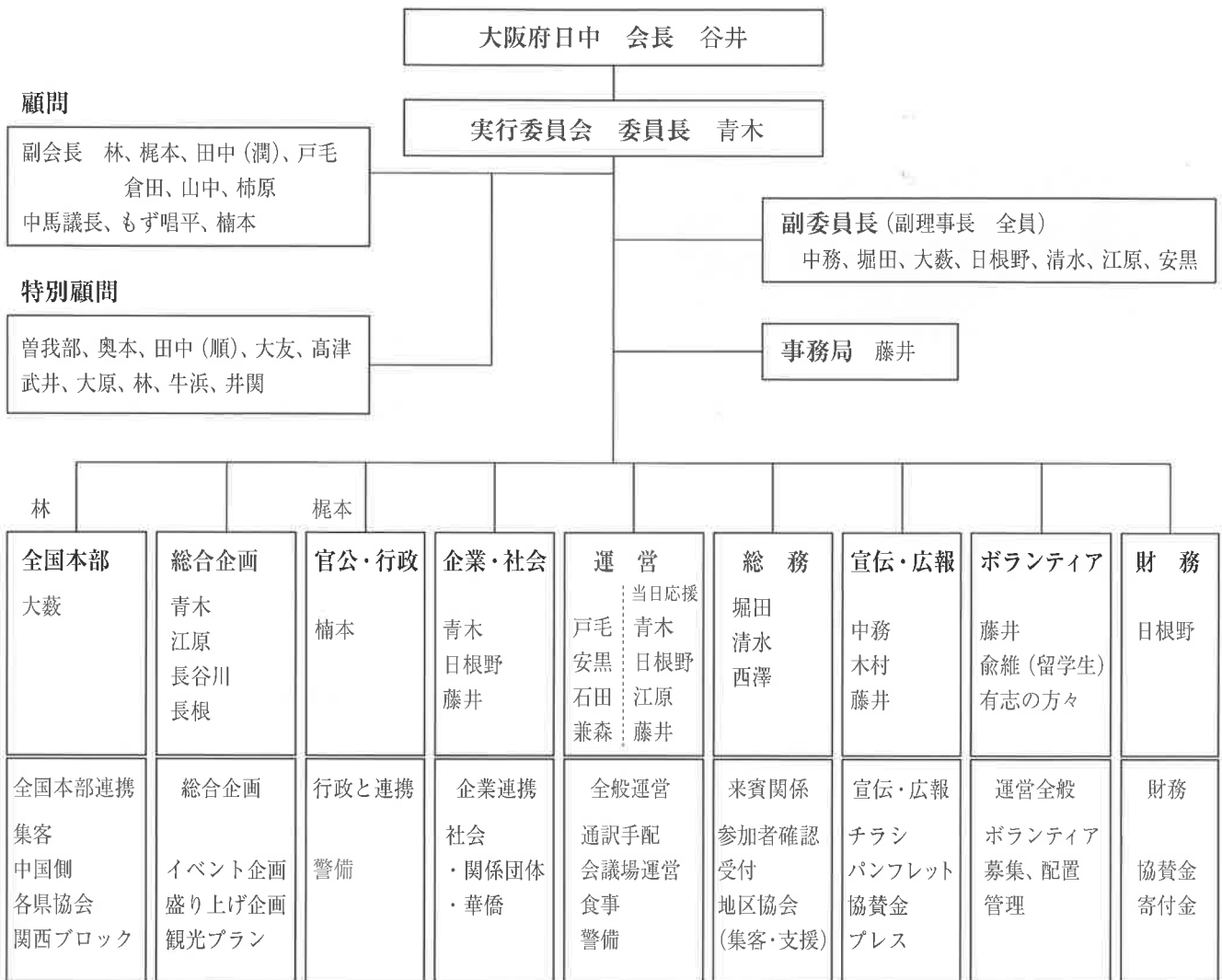
8月28日 第7回実行委員会・第2回理事会

参加者が本部想定より大幅増加の400名規模になり、全体会議の会議場も、リーガロイヤルホテルに変更決定

実行委員会 9月10日(8回)、16日(9回)

● 第14回日中友好交流会議 大阪開催実行委員会組織 ●

(敬称略)



9月22日 懇親会を終えて実行委員会メンバー、ボランティアの皆さんをねぎらう谷井会長 写真左：男性陣と、写真右：一部の女性スタッフと(左から)兼森さん、柴田さん、増田さん、山岸さん(本部)、安黒さん、鴻本さん



9月21日(日)

## 関西国際空港で中国からの訪日団を受入れ歓迎



到着された訪日団の方にホテルの中国語パンフレットをお渡しして行き方の説明をした

これまでの日本での交流会議では、空港での出迎えは中日代表団一行だけの出迎えでしたが、今回の大阪開催では中国各地からの訪日団についても9月21日に到着される方々の受入れ・歓迎をすることに決めました。堺日中の4名の皆さまが関空に午前中から夕方まで張り付いて各地からの訪日団の歓迎・対応をしていただきました。関空からリーガロイヤルホテルまで迷子にならないように、中国語のパンフレットを配布して行き方の確認をしました。

謝元団長一行も無事に到着され、青木実行委員長、本部から永田常務理事が出迎えし、バスに同乗してホテルに向かいました。



中国側訪日代表団で一行をお出迎え



代表団一行 赤いバスに乗り込みホテルへ向かう  
前列左 団長の謝元・中国人民対外友好協会副会長



常州市から到着した陶欣さんの歓迎に高槻市日中から  
(左から) 中居さんと山本さんがお出迎え



関空でお出迎えしてくれた堺日中の皆さま  
左から邱 雅芳さん、堀田さん、石田さん、甘露さん

リーガロイヤルホテル、NCBホテルでの受付は夜遅くまでかかりましたが、実行委員会、多くのボランティアの皆さんの献身的な協力を得て、なんとか無事に終了。

21日の夜には、中国側代表団、王公使一行も含めた総勢25名の歓迎夕食会を府日中・本部共催で実施し、明日からの会議の成功を誓い合いました。

9月22日(月)

## 午前 全体会議(開会式)の様

(於)リーガロイヤルホテル(大阪)

9月22日の9時30分から開会式開始。今宮戎神社のご協力で5名の福娘さんに先導されて両国代表、来賓が入場し着席の後、大阪観光局製作の「大阪紹介」DVD特別版を上映。その後、福娘さんから両国団長に花束贈呈、さらに中国語を勉強している福娘さんから中国語で挨拶があり、大阪締めも披露してもらいました。

開会式には中国側132名、日本側182名の合計314名が参加。来賓として王曉渡・駐日中国大使館公使、劉毅仁駐大阪大使級総領事、松井一郎・大阪府知事、三輪昭・外務省関西担当大使らが出席。

また多くのプレスの取材がありました。



福娘さんの音頭で大阪締め、中国語でのあいさつも



壇上の代表紹介(日本側)



壇上の代表紹介(中国側)



9/22 開会式 大阪紹介DVDで開始



両国団長に福娘さんより花束贈呈



壇上の皆さんの紹介の後、主催者を代表して日本側団長の酒井哲夫・日中友好協会副会長、中国側団長の謝元・中国人民対外友好協会副会長のごあいさつがあった。



来賓挨拶 松井一郎・大阪府知事  
王晓渡・中華人民共和国駐日本国大使館公使



来賓挨拶の後、ティーブレイク  
京都和東町の方から無償提供で緑茶・紅茶のサービス



和東茶を楽しまれる王秀雲副会長ら



中国側代表の王秀雲・中日友好協会副会長による基調報告  
(内容要旨はP.5をご覧ください)



日本側代表の宇都宮徳一郎・日中友好協会副会長による基調報告  
(内容要旨はP.4をご覧ください)



贈書式  
作家の彭曉立さんが書いた  
「紅櫻花」を橋本副会長へ



岡崎理事長から雲南省代表への義捐金贈呈



《紅櫻花》は中国国内で初めて全面的で最も完全な形で日本籍の解放軍兵士を描いた大型文学作品。40万字に及ぶ作品は、日本籍解放軍兵士という特殊な集団を描いており、中国人民解放戦争という偉大な革命の中で、人民軍隊という垣塙の中で中国籍の戦友と肩を並べて戦う姿と中国の革命事業のために奮戦する姿を描いた物語。



9月22日 正午からの「日中経済懇談会」(於：リーガロイヤルホテル)

開会式の後、9月22日12時過ぎから交流会議では初めてとなる日中経済懇談会が行なわれた。

これは、大阪は経済の街でもあり、関西は日本の日中貿易の3割を占めている。経済において日中関係は切っても切れない関係にあり、交流会議が大阪で開催されるにあたって、関西経済界と中国側経済関係者との交流・懇談の場を創ろうという趣旨からでした。

懇談会には日本側から21名、中国側から牛興茂・総領事館商務室室長も加わって22名となり、まずは昼食を取った後、谷井会長、王秀雲副会長の挨拶にはじまり懇談を行なった。



「日中経済懇談会」についてあいさつで趣旨を説明する谷井会長と、中国側代表で挨拶をする王秀雲副会長



日本側を代表してお話をされる日中経済貿易センター 村山会長と、中国側を代表してお話をされた吉林省女性企業家協会 会長 曲慧霞先生



一般昼食会場は午後からの分散会のグループ分けに基づいて、第1分散会メンバーは「ペリドット」、第2、第3分散会メンバーは分散会場がリーガロイヤルNCBになるので誘導しやすいように「桐の間」に分かれての昼食。



**第1分散会**

中国側28名、日本側57名が参加。発言は中国側5省レベル、日本側12府県。現状に危機感を持つ内容が多かった。

日本側：青少年交流がストップしている。是非再開を。

中国側：10月に省長・知事会議を北京で開催する。状況を改善する良い機会になる。

現在の両国関係の危機意識を日中双方で共有し、この局面を転換させる為に、地方交流・青少年交流の強化をはじめ民間の立場を原点に立って展開しようと決意。イノベーションを全ての分野で行なう時。両国の共同利益を拡大し、過去の努力を無駄にしないように。「小異を残して大同につく」鳥問題の解決にもヒントになるのではないかな。



第1分散会 座長

日本側：西堀正司・日中友好協会常務理事  
中国側：張継剛・山東省人民対外友好協会常務副会長

**第2分散会**

日本側：青少年活動スタイル再構築(大阪)。学生交流のスタンス変化。環境・医療等を含め「結果と成果」を出そう(長野)。日中韓若者交流も必要(神奈川)。会議の中国側は若い、日本側も若手出席の努力、工夫を(兵庫)。農業視察要望に応じている(茨城)。

中国側：諸交流大歓迎(重慶市)。都市間交流に力(貴州)。全方位・多分野(環境保護・汚染処理・高齢者福祉)交流推進(遼寧)。日中双方歴史と文化を学ぶ事が重要(雲南)。

多彩な交流の基礎作りに努力しよう(北京市)。リーダーを育成し交流が必要(湖北)。

交流の促進、幅広い分野での互惠協力(共通利益の拡大)を行なう。



第2分散会 座長

日本側：永田哲二・日中友好協会常務理事  
中国側：王広成・重慶市人民対外友好協会副会長

**第3分散会**

日本側：地方や民間は「民を以て官を促す」の精神で友好交流を進めており、毎年、植樹団を派遣し、環境保護を通じた交流をしている等の取り組みを報告。

全国的に協会組織が高齢化、若い世代への継承が課題、若者向けのイベントの企画、ITの活用を組織的に進めるべき。

中国側：多くの日本企業が投資している現状や中国の環境問題など、協力して解決すべき課題、日中友好の促進こそが双方の利益になる。また、友好提携している地方間の交流事業として、青年交流の拡大や、各省内の歴史遺産・観光資源を宣伝して日本から多くの訪問者を望む。

日中双方に共通する意見は、国同士の関係が悪いからこそ民間交流を拡大し、「民を以て官を促す」取り組みに努めよう。



第3分散会 座長

日本側：田中彰寿・日中友好協会理事  
中国側：張建国・陝西省人民対外友好協会専職副会長



第2、3分散会場のリーガロイヤルNCBには全体会議場・昼食会場からは歩いて5分程ですが、要所要所には警備の警察官が配置されていて安心でした。

ご苦労様でした。感謝







9月22日の懇親会は夕方6時からリーガロイヤルホテル「ロイヤルホール+ラウンジ」で。日中合わせて400名近くの参加者で会場は溢れんばかりの大盛況。1部では日中双方の歌や踊りを楽しみ、2部で主催者代表あいさつ、鏡開きをし日本酒で乾杯。テーブル料理の他に大阪名物のたこ焼き、串かつ、大阪寿司、堂島ロールなどの屋台も出て、大人気となった。楽しく舌鼓を打ちつつ大いに語り合い、打ち解けた雰囲気の中で、人と人の親交を新たに結び、また深め合うこともできた。



歌手の高橋樺子さん「你好再見音頭」、もず唱平先生作詞の最新曲「桜」を熱唱。歌手の成世昌平さん「明日があるさ君の掌に」を歌う（日中友好協会60周年記念に作られた歌 作詞：もず唱平 作曲：谷建芬）



大阪大学中国人留学生による「玉生煙」の舞踊（玉から煙が生ずる、美しい玉が海に落ちれば見つけれない）



高槻市、金光高校チアリーダーの元気溢れる演技（2014 JPN CHN ハート LOVE を順に表現、拍手喝采）



主催者を代表して谷井昭雄・日中友好協会名誉副会長、当協会会長と謝元・中国人民対外友好協会会長の挨拶



司会の戸毛敏美氏から「鏡割り」は直訳すると破鏡、熟語「破鏡重圓」（喧嘩した夫婦が元のさやに納まる）という意味との紹介があり、3つの樽酒を来賓含めた19名の皆さんで、両国関係改善・友好促進への想いを込めた。



田中清剛・大阪市副市長による乾杯の発声



枚方市日中と上海市長寧区の皆さん



八尾市日中と上海市嘉定区の皆さん



梶本徳彦・大阪府日中副会長による中締め



記念講演の講師のご紹介をした青木俊一郎・副会長



記念講演の講師：藤田正憲氏・大阪大学名誉教授

会議2日目は、これまでの慣例では前日の分散会での討議のまとめを各グループ代表が発表していた。今回は初めての試みで記念講演を行なうことになった。

昨今、中国でも環境問題が深刻化しているが、日本でも同様の問題が過去あり、さまざまな対策をしてきた経験がある。大阪府の事例を中心とした「環境対策、日本の経験」という演題で藤田正憲氏・大阪大学名誉教授に講演をして頂いた。日中双方の参加者にとっても有意義でまたわかりやすい講演だった。



記念講演に続き、今年7月に35歳の若さで熊取町日中の会長に就任した林雅清会長と林敦子ご夫妻が「大阪宣言」を夫人が日本語で、林会長が中国語でそれぞれ読み上げ、万雷の拍手で採択されました。

交流会議史上、こうした共同宣言という形で対外発表をしたのは初めてで歴史に残る場面でした。林ご夫妻には、会議の1週間前に初めて打診をするという中で、非常に立派な発表をして頂きました。感謝！



最後の閉会式で、まずは王秀雲・中日友好協会副会長(左)があいさつをし、最後に、岡崎温・日中友好協会理事長(右)が閉会の辞を述べて第14回日中友好交流会議の全ての日程を終えた。





**中国側訪日代表团 7名**

謝元 中国人民对外友好協会 副会長  
 王秀雲 中日友好協会 副会長  
 程海波 友好交流部 部長  
 潘林 友好交流部 副部長  
 付博 友好交流部 職員  
 鄭李旦 政治交流部 職員  
 劉夢妍 都市經濟交流部 職員

**各地からの代表团 125名**

(役職省略)

北京市 北京市 高双進 李維建  
 河北省 邢台市 裴雅鋒 秦中堂 杨自平  
 山西省 山西省 田亦军 任国英  
 遼寧省 遼寧省 李承志  
 大連市 刘舫 孙立娣  
 本溪市 李伟  
 吉林省 吉林省 李冬梅 何彦宏 彭瑶  
 吉林省 曲慧霞 常建华 曹雪  
 闫秀敏  
 吉林市 肖立群 柴悦  
 長春市 徐怀武 沈玲玲  
 延辺州 付文飆 王凤新 田永哲  
 陈惠景 高云龙 池美映  
 黒龍江省 黒龍江省 張曉宏 郭文博  
 上海市 上海市 曹海炯 朱政宁  
 黄浦区 孙甘霖 陈建浩 张正明  
 宇进波 刘群  
 長寧区 王仁伟 熊世伟 张明远  
 刘旭 钱国华  
 嘉定区 任少傑 張紅英 奚慨豊  
 范鈞 金銀淑 楊茜  
 江蘇省 常州市 陶欣  
 浙江省 浙江省 陳愛珍 邬蓮平 程幼章  
 郑竹筠 孫蓓蓓  
 金華市 于萌芽 陈凯进 傅得樟

江西省 江西省 叶龙 朱国武  
 陳緒峰 李德偉 王華欣  
 潘華 曾広福  
 山東省 山東省 张继刚 赵广洪  
 濟南市 张士平 康元松 丁正功  
 韩金娟 刘勇 刘朴  
 青島市 真珠 鞠建军 王蓬  
 王爽 田一飞  
 棗庄市 王启科 岳増波 王兆铎  
 秦歌 刘鹏 杨琳琳  
 安元春  
 河南省 河南省 郭俊峰 朱元超 胡采梅  
 刘培林 刘海波 李明雷  
 湖北省 黄石市 秦永宏 汪志峰 胡欣荣  
 毕正洁 刘安定 邵奇  
 湖南省 湖南省 王踐 湯萌 仇定高  
 曾長安 熊俊傑  
 湖南省 彭晓立  
 広西チワン族自治区 覃林顺 譚敏虹 唐小笛  
 韦汉清 覃柳翠 田庄  
 重慶市 重慶市 王广成 林卫国 魏光飈  
 管晓锐 杨任侠 唐文颖  
 貴州省 貴州省 陈国德 岑鹏  
 雲南省 雲南省 程云川 张世洪 李晓娟  
 昆明市 许昌明 芮凌  
 陝西省 陝西省 张建国 唐宝云 刘远霸  
 吕纓

**中国からの会議参加者 合計 132名**

第1分散会 座長

張繼剛 山東省人民对外友好協会 常務副会長

第2分散会 座長

王広成 重慶市人民对外友好協会 副会長

第3分散会 座長

張建国 陝西省人民对外友好協会 専職副会長

**大阪府日中関係**

(順不同、敬称・役職省略)

**〔直属個人・青年会員〕**

谷井昭雄 梶本徳彦 中馬弘毅 もず唱平  
 戸毛敏美 大薮二郎 日根野文三 安黒善雄  
 八浪暢生 吉澤宏始 石田 秀 谷川 昭  
 花谷幸比古 藤井秀幸 鴻本久美 玉置正雄  
 田端昭子 楠本政幸 青柳明雄 増田華与  
 方 一 如 山内崇人 山内富美子 山内美奈  
 細川行三 西 伸介

**〔直属法人・団体会員〕**

村山 敦、青木俊一郎(日中経済貿易センター) 山  
 田幸次郎(西日本貿易) 神谷明文(日立造船) 堀  
 博史(レンゴー) 谷本榮子、吉川佳孝(関西外大)  
 鈴木育子(大京) 川崎 亨、高舛啓次(ロイヤルホ  
 テル) 昌尾一弘、宮田浩二、藤川成久(池田泉州銀  
 行) 今堀 均(ジョブックス) 高月俊生(ダイセ  
 ン) 長曾我部誠(竹中工務店) 福田里香(パナソニッ  
 ク) 中野星子(日本航空) 北垣 弘(ウェスティンホ  
 テル) 原 正和、橋口高明(Takeda Works) 尾崎  
 蒼石(日本篆刻家協会) 萩尾千里、足立恒孝、長根  
 正治(大阪国際フォーラム) 川元貴之(日中平和観光)

**〔地区協会会員〕**

池田市日中 倉田 薫 井上 章  
 枚方市日中 山中 卓 奥野 稔 山根裕治  
 松田永茜  
 八尾市日中 田中順治 池田嘉次 阿野 覚  
 岡田健治 岩本昌造 岩本洋子  
 谷本光雄 谷本満智子 柴本雅由  
 高槻市日中 柿原勝彦 笹井 宏 福山公朗  
 柏葉梅子 小野真路 西澤哲昭  
 堺 日 中 林 昭嘉 曾我部篤爾 井内哲義  
 石田哲男 堀田雄一 荒石義一郎  
 石崎享彦 前田和子 岡村美智子  
 吉田敦子  
 岸和田市日中 武井俊成  
 河内長野市日中 大原一郎 竹田昌史 田村良行  
 阪南市日中 中務武志  
 熊取町日中 林 雅清 林 敦子 檉井賢一  
 豊中市日中 田中潤治 清水正弘 小山登  
 坂口福美 片岡潤子

吹田市日中 二宮 信 遠藤博輝  
 藤井寺市日中 井関 功 金銅俊二  
 大阪三島日中 江原 均 長谷川由子  
 小林貞夫 中山正朗

**ご協力頂いた企業からのご参加**

小林義彦(関西経済連合会)  
 森尾周治(三井物産) 上野雅之(ダイキン)  
 福島伸一、住田弘之(新関西空港) 森脇秀輔(カナ  
 フレックス) 中嶋 秀、相良尚志(三井住友銀行)  
 土井英二(兵庫県貿易) 苗村昭夫(ユニックス)  
 山本剛史(アルファホープス) 山川ともみ(池光エン  
 タープライズ)

**関係団体等からのご参加**

大橋一功、谷川 孝、しかた松男、半田 實、堀田  
 文一、徳村さとる(大阪府議会) 劉中耀、于学偉、  
 李存琳、戦松茂(大阪華僑総会) 胡士雲(西日本新華  
 僑華人联合会) 郭強、劉文(関西在職中国人交流協会)  
 佐藤明久(福山市日中) 小林忠春(但馬日中交流会)  
 落合幸弘(創価学会) 金岡重雄(カナオカ機材) 的  
 場佳子、塚田雅子(伊藤忠) 藤田勝利、小原正敏、  
 原田利明(日中産業交流協会) 坂じゅんいち(NPO  
 法人囲碁教育振興会) 佐々木洋二(帝国ホテル)

**大阪関係ご来賓**

三輪 昭 外務省大阪分室 特命全権大使  
 劉 毅 仁 中国駐大阪総領事館 大使級総領事  
 宋 雄 偉 中国駐大阪総領事館 副領事  
 松井一郎 大阪府知事  
 小西禎一 大阪府副知事  
 中村昌也 大阪府府民文化部国際交流・観光課長  
 田中清剛 大阪市副市長  
 土橋ひとみ 大阪市経済戦略局 交流推進部長  
 淺利敬一郎 豊中市市長

**大阪関係の参加者は 合計 約150名**

(ボランティアで応援して頂いた多数の方含まず)

日本側参加者 合計 約270名

# 環境対策 日本の経験

## ～大阪府の事例を中心に～

講師：大阪大学名誉教授 藤田 正憲氏

### 1. 緒言：高度経済成長と公害の発生

- 高度経済成長と公害の発生
- 環境の悪化と健康被害の発生
- 5大公害訴訟
  - 提訴年 1967年 新潟水俣病
  - 1967年 四日市ぜんそく
  - 1968年 富山イタイイタイ病
  - 1969年 水俣病
  - 1970年 大阪国際空港
- 公害国会1970年、公害問題、国会で集中審議  
1971年、環境庁を設置
- 健康被害の救済制度
  - 1969年、公害による健康被害に対する補償制度が創設
  - 「汚染原因者負担の原則」に基づく制度  
保障給付の財源は汚染原因者が負担

### 2. 大気汚染と対策

- 大気汚染物質の種類と特徴
  - 硫黄酸化物 酸性雨、呼吸器系疾患
  - 煤塵(粒子状物質) 直径 $2.5\mu$ 以下 PM2.5
  - 二酸化窒素 呼吸器系疾患、光化学スモッグ
  - 光化学オキシダント 目鼻の刺激、農作物被害

大気汚染による健康被害の拡大＝硫黄酸化物と煤塵の削減対策が急務！

- 公害防止条例改正(1971) 法の規制を更に強化  
府内2万以上の工場を徹底調査・指導  
燃料転換等の改善、湿式洗煙装置等の設置

工場密集地域では個々の煙突の排出規制では不十分  
個別規制から総量規制へ（地域全体で許される量を設定・割り当て）総量規制基準を設定（1977）

- 大気汚染常時監視システム設置（府域105局）
- 自動車の普及＝窒素酸化物の対策
  - 排ガス規制開始（1978）、総量削減計画（1982）
  - 流入車規制（2009）
- 大気環境の今後の課題—PM2.5

### 3. 水質汚濁と対策

水質汚濁と対策の歴史

大阪府 公害防止条例改正（1971）

府域の全工場の排水口点検、下水道の普及  
河川水質はある程度改善も人口・産業が集中する地域で、閉鎖性水域である大阪湾を保全するためには濃度規制では限界！＜海への影響を抑えるために流域で許される量を設定・割り当て＞

- 大阪湾の総量削減計画を策定（1979～）
- 生活排水対策推進会議を設置（1988）  
重点地域を指定（全部で14地域）（1991～）
- 総量削減計画に窒素、磷を追加（1999）

今後の課題：下水道資源の活用

- 下水のエネルギー活用  
メタン発酵（ガス、発電）、汚泥の炭化、熱回収
- 下水の資源活用  
高度処理水、磷回収＝肥料化、窒素

### 4. 地盤沈下と対策

不等沈下、高潮に襲われる（1961）  
地下水採取量と地盤沈下の関係

### 5. 廃棄物と対策 ～3Rの推進～

廃棄物の急増により、最終処分場の確保が困難に  
1990年代、焼却を基本からリサイクル促進に  
循環型社会実現に向けて（3Rの原則と責任分担）

3Rとは？

- Reduce（発生抑制）
- Re-use（再使用）
- Recycle（再生利用）

主体	責務
行政	3R促進施策推進・支援
事業者	・拡大生産者責任 (廃棄された段階にも責任)
	・排出者責任
国民	・循環利用に努める ・排出者責任

### 6. 結言

～対決からパートナーシップへ～

市民による公害訴訟、環境再生に向けた取組み  
あらゆる主体の協働による環境まちづくりへ  
大阪21世紀の新環境総合計画（2010～2020年）  
目指すべき将来像「府民がつくる暮らしやすい、  
環境・エネルギー先進都市」



枚方市長・議長 表敬〈市役所市民応接室〉

枚方市と友好交流提携都市である上海市長寧区より、王仁偉（長寧区体育局局長）他4名が「第14回日中友好交流会議」に参加された。

会議終了後、「長寧区市民代表団」として、枚方市に来られた。枚方市を表敬訪問後、枚方市・枚方市日中友好協会の共催で歓迎懇親会を開催した。和やかな楽しい雰囲気の中で話も弾み、久しぶりに有意義な友好交流ができた。

枚方市滞在中の日程は以下の通りです。

- 9/21(日) 関西国際空港着 (12:10)  
本協会、会長山中卓が出迎え。
- 9/22(月)～9/23(火)  
第14回日中友好交流会議に参加  
(於) リーガロイヤルホテル  
..... ○ .....
- 9/24(火)  
PM5:00～5:40 枚方市長・議長表敬  
武内脩 枚方市長、鷲見 枚方市議会議長、  
山中卓 枚方市日中会長等と面談  
(於) 市役所・市長応接室  
PM6:00～8:00 歓迎懇親会 (於) 仙亭  
〈枚方市・枚方市日中友好協会共催〉  
本協会より山中会長他、理事有志8名が参加
- 9/25(水)  
AM9:00～12:00  
枚方市内の施設を視察  
・総合体育館、陸上競技場



▲▼ 歓迎・懇親会〈仙亭〉



南部生涯学習市民センター



総合体育館

- ・南部生涯学習市民センター
- ・市民会館大ホール 他

PM7:45 関西国際空港より韓国ソウルへ移動  
(枚方市日中友好協会理事長・奥野 稔)



9月24日 料亭「山徳」での八尾市日中主催の歓迎会



今年の5月に、八尾市国際交流担当課から、友好都市である上海市嘉定区も参加して、9月に大阪で開催される「第14回日中友好交流会議」に、わが協会が参加するか否かの問い合わせがありました。

私は、府日中の地区協会会長会議で、交流会議が大阪であると議題に出された時から、交流会議を盛会にするために、わが協会から一人でも多くの会員に参加いただきたいと考えていたので、市当局に即座に参加すると返事しました。

聞くところでは、上海市対外友好協会から友好都市に強い参加要請があったようです。

リーガロイヤルホテルの懇親会場では、任少傑（ジン ショウケツ）団長を初めとする6名の交流会議参加者と、当協会メンバー同士が初対面とは思えぬほど親密に身ぶり手ぶりを交えて語り合い、32年間の友好交流の重みを感じました。

交流会議会場で再会を約した嘉定区の皆さんには、9月24日に八尾の街へお越しいただき、市内企業を見学いただいた後、当協会が「料亭 山徳」にて主催した歓迎会に参加いただきました。

「料亭 山徳」は、32年前の9月に、蓬樹春（ホウジュシュン）団長「上海市嘉定区長」一行を、当協会が初めてお迎えして交流談義に花を咲かせた、两市・区にとって忘れる事のできない、歴史のある場所で、この場所での歓迎会は、その歴史の思いを受け止め、皆さんと静かに交わす杯、笑顔で交わす杯、眼と眼で交わす杯、どれひとつ取っても友好交流の深さ、重みを感じる一夜で、時の経つのも忘れるひとときでした。

八尾市と上海市嘉定区の友好・交流は永遠であり、本年度は、引き続き10月24日に青少年交流団、11月には幹部級交流団が来市され、当協会としても、大変忙しい1年となりそうです。

今回、大阪で開催された「民間交流の新たなる高まりを！」をテーマとした交流会議は、参加者全員がその高まりを感じて「何か」をしなければならない、そのしなければならない「何か」を感じたのではないのでしょうか。

今の状況を打開する「新たなるたかまり」を！

八尾市日本中国友好協会  
会長 田中 順治

## 友好都市・常州市から陶欣氏来高

### 交流再開見通しに光明か

9月22・23日、「第14回日中友好交流会議」が、リーガロイヤルホテル大阪で開催され、中国側から132人が日本側から255人が参加、日中双方で約400人の盛大な会議となった。

この度の交流会議には、中国代表の1人として当市の友好都市である江蘇省常州市から常州市人民対外友好協会・民間交流促進処処長：陶欣氏が参加された。この機会に、当協会の9月の恒例事業である「第16回日中友好ビアパーティー」に招聘することにし、開催日を交流会議終了の23日に変更。歓迎会を兼ね、それに我が国のビアパーティーの風情に触れてもらうため、たかつき京都ホテルのビアガーデンで行った。晴天の夜空に星を仰ぎ快適な気温のもと、昨年を上回る51人の来賓、当協会役員と会員らの参加を得た。

柿原副会長の歓迎挨拶に続き、来賓代表の府日中：日根野副理事長の挨拶後、陶氏からは歓迎への礼とともに、「常州市には現在日本の大手企業が操業をしているが、今後更なる投資と企業の進出を期待している」との挨拶があった。この後、角高槻市議会議長（当協会理事）の乾杯発声で懇談に入った。物腰がやさしく気さくな人柄の陶氏の周辺には人の輪が途切れず、いつも以上に賑やかで雰囲気の良いパーティーとなった。

初来日した陶氏の行動は過密だった。21日関西空港に到着するやその足で京都市内観光に出かけた。23日交流会議終了の午後は、大阪市内で買い物をした後、本人の希望で高槻市立養護老人ホームを視察



9月23日  
上…「ビアパーティー」会場で柿原副会長より陶欣氏に着物を贈呈  
左…陶欣氏をはじめ高槻市日中の柏葉さん（左）と福山理事長

し、夜はビアパーティーに出席。

翌24日は浜田高槻市長への表敬訪問と槻の木高校を訪れ、午後は明治製菓・大阪工場を視察。夜はお別れ会に臨席し、25日には関西空港から帰国の途に就いた。この間空港での出迎えから見送りまで柿原副会長以下、福山理事長、柏葉副理事長（通訳）、山本・中居両理事らが自らお世話と案内に奔走した。

離日に当たり陶氏からは、我が協会の2人の女性理事に常州市を訪問するよう要請があり、来年にも訪中する予定である。私人の立場とは言え、暫く途絶えている両市交流の扉を開く契機となる要請であり、協会挙げてこれに応え交流推進の機運を高めたいと思っている。

（高槻市日中友好協会理事：笹井 宏）

## 〈門真市と山東省棗庄市が友好都市提携に向けて交流〉

今回の友好交流会議を通じて、棗庄市からの訪日団と、今回新たに府日中の法人会員となったTakeda Works社の原正和氏を中心として門真市との交流が行われ、両市の友好都市提携に向けた交流が開始されています。

## ● 友好交流会議を終えて ●

### 第14回日中友好交流会議に参加して

今回の交流会議は、日中間の最も冷え込んだ時期でもあり、相互に何とか改革の方向で仲良くなれないものか、また、参加者各位も何か解決策が見出されるだろうと期待を持って参加したことと思いますし、私もその一人でありました。

開会式、相互のメッセージでも案外ことなかれの感覚として受け止められたと思う。特に、東京本部の意向だと思うが、大阪での開催で何か大阪のメンバーから代表メッセージが出されるべきで若干気落ちしたことは事実です。会長は当然開催地代表ですから、よかったと思いますが……。

次に第1分散会に出席し、時間いっぱい各メンバーの提案なり過去の交流内容の報告が多かった。会議のテーマ“民間交流の新たな高まりを”の提案が少なかったことに盛り上がりを欠いたが、第2日目の閉会式を含めて、これまでにはない交流会議であったと思う。

会長はじめ実行委員の皆さんご苦労さまでした。

副会長・林 昭嘉

### 交流会議の思い出

大阪の第14回日中友好交流会議が成功裏に終わり、わたしは約30年前の第3回交流会議のことを思い出した。

あの時、1987年7月3日、全国の代表が大阪に1泊し、会議の準備をし、北京に出かけた。丁度、大阪から第1回交流会議に参加した大阪日中友好協会の雨宮礼三理事長は入院していた。全国本部の副理事長も兼ね、協会の苦勞を背負ってきただけあり、全国的にもよく知られ、人望があった。全国の役員の何人かが、入院中の西淀の第一病院に入れ替わり見舞いに出かけた。雨宮理事長としてはうれしかったに違いない。すでに夫人をなくし、子供がいない雨宮理事長に対して、日頃は協会会員が入れ替わり世話をしていた。

7月5日、北京で第3回交流会議が始まる朝、見

舞っていただいたことのある中日友好協会の孫平化会長から、雨宮理事長がなくなったことを知らされた。山中林之助副会長と一緒にだったが、始まる会議に参加し、葬儀は留守組に任そうということにした。まだフライトは少なく、今のように1日に何便もある時代ではなかった。

雨宮理事長がなくなった7月5日は、1981年のその日に雨宮会長の大阪太極拳協会が誕生した日で、そして今の事務所は、第一病院の近くにある。また今年も、大阪市と上海市が友好提携して40周年であるが、雨宮礼三・富美子夫妻は上海の宋慶齡陵園に眠っている。そんなことを思い出した。

副理事長・大藪 二郎

### 日中友好交流会議の成功を祝して

日中間の厳しい状況にあって、日中友好交流会議を、当初は5月に開催することで準備を進めましたが、その後9月に延期することになりました。それでもなお開催が危ぶまれる状況でしたが、谷井会長が「9月に開催する」と英断されました。その方針に基いて、実行委員全員が一致団結し、関係団体の皆さんのご協力をいただきながら準備に取り組みました。

私自身も実行委員の一人として、全体会議、分散会、記念講演の計画、準備と当日の受付け、警備、記念講演の講師依頼などを多くの方々のご協力を得ながら担当しました。

会議終了後の24日には、谷井会長のご指示で、帰国される謝元団長を関空でお見送りし、謝元団長から「大阪での交流会議はたいへん有意義でした。関係の皆さんによるしくお伝えください」と、ねぎらいの言葉をいただきました。ご協力下さった皆さんほんとうにありがとうございました。

副理事長・清水 正弘

## ● 友好交流会議を終えて ●

### 第十四回日中友好交流会議参加 感想

第十四回日中友好交流会議が盛会のうちに終わりましたこと本当におめでとうございます。今回、大阪府日中友好協会の皆さんと一緒に交流会議のお手伝いをさせていただき、ありがとうございました。私も主人も普段から公私共に日中友好の発展を願い、草の根の友好交流活動を展開していますが、今回のような大きな行事にかかわった経験がなく、多くのお客様を目の前にして、大変緊張した3日間でした。しかし、現場の皆さんがそれぞれの持ち場で、皆さんの力を充分発揮された結果、無事にすべての行事が進んでいったのだと思います。

私も主人も中国から来られたお客様の受付やご案内、安全、小さな困りごとの早期解決などを心がけて取り組みました。中国中央政府や各地方代表の皆さんも2日目には私達の顔を覚えてくださり、和やかに笑顔で話しかけてくださいました。普段緊張しながら、お仕事をされている皆さんがホッとくつろいだ表情を見せてくださる瞬間に私達の緊張も少し和らぎ、お役に立てた喜びも感じました。

交流会議参加者の人数もたいへん多く、色々な会場に分かれての分科会議もありました。きっとご案内や誘導は大変だろうと想像していましたが、会議に参加された皆さんが積極的に協力して下さったおかげで、大きな混乱もなく、各プログラムが進んでいきました。参加する側もお手伝いする側も心をつなぐことで、こんなにも大きな会議を盛大に開催することができるのだと大変勉強になりました。

中国側の通訳やお世話役を担っている皆さんも交流会議成功のために、陰でいろいろがんばっていらっしゃいました。私たちも会議終了後に他の地域へ移動するグループの交通機関案内や日本語メモのサポートなどをお手伝いしました。小さな困りごとが早期解決し、安心した笑顔をいただいたときには私たちも一緒に嬉しい気持ちになりました。

私も主人も微力ながら、今後も皆さんと心を合わせて頑張っていきたいと思いました。

お世話になった皆さま、大変ありがとうございました。

CJIBOX(株)代表/豊中市日中友好協会理事

井関 敦子

### 第十四回日中友好交流会議参加 感想

2014年秋初、大阪府日中友好協会のスタッフとして、第十四回日中友好交流会議に参加しました。中国中央政府と各地方の国際交流の代表が大阪に来たことは今回の大会をとっても重視しているからだと思っています。

日本と中国はアジアの大国として、政治、文化、経済など、アジアの他の国に影響が大きいです。だから、両国の友好、安定が一番大事なことだと思います。2012年秋からいまままでに、領土問題があるので、両国の関係は冷たくなりました。私は日中の間の交流、貿易の仕事をしていますから、よく感じています。いろいろな不便のこともあります。でも、両国の将来に対して自信があります。国との関係と家族との関係は同じだと思います。仲良しの時もあるし、不満な気持ちの時もあり、全体の歴史から見ると、友好の時期は長いと思います。

自分は一般的な人間です。日中関係に大きなことは何もできない。でも、私は小さいことからがんばりたいです。みんなで小さいところから頑張れば、強い力になると思います。今回交流会議のスタッフとして、色々な経験をもらいました。身体は疲れたけど、気持ちがとっても良かったです。大阪府日中友好協会の皆さまのやる気とか、優しさとか、本当に感動しました。また、このような活動があるときに、みな様と一緒にまた頑張りたいです。ありがとうございました。

CJIBOX(株)中国・アジア担当

豊中市日中友好協会理事 楊 舒



## ● 友好交流会議を終えて ●

### 2014年日中友好交流会議に参加して

大阪府日中友好協会が第14回日中友好交流会議を主管することを知ったのは、本年に入ってからだと思います。大阪市在職時には、友好都市上海市との交流に際して、本協会には大変お世話になった経緯があるので、大したことはできませんが、幾分かはお手伝いをしなければならないと考えていました。

実際に実行委員会に入って具体的な業務をしたのは8月になってからで、実行委員会での業務はプレス担当ということでした。行政在職時のプレス対応は組織の一部として動くので楽ですが、個別の団体がプレスに働きかけるのは結構大変です。今回は副会長ならびに元国際交流監であった楠本さんを通じて大阪府の組織的な支援をいただいたので、大変助かりました。テレビではMBSで放映され、新聞では福井新聞に掲載され、家族からもテレビを見たとの報告をしてもらいました。

また当日には大阪府の現職の方々の協力もいただき、今後の日中関係を配慮される行政の皆様の熱意を感じました。こじれた政府間の関係を正常化するのは政治の問題ですが、地方自治体を含め民間団体の地道な交流を通じる関係改善の可能性を探る絶好の機会が、この日中友好交流会議だと感じ、ここ大阪で開催された意義があったと思います。

最後に個人的なことを申して恐縮ですが、上海市から参加されたお二人の老朋友にもお目にかかることが出来、有意義な機会をいただき感謝しております。

理事・木村 勇

### 実行委員会メンバーとなって感じたこと

日中友好交流会議の開催に際し、今回、初めて大阪府日中友好協会の運営スタッフとして参加させていただきました。

谷井会長や藤井事務局長をはじめ会議に関わった皆様の会議成功への熱い思いと献身的な姿、中国に対する親近感、関心の高さが何よりも印象的でした。

準備に際しては、6月の準備会議で、谷井会長から、交流会運営の理念と運営にあたる実行委員の行動指針が明確に示されましたので、最後まで一丸となって大阪らしい“おもてなしの心”で対応できたと思います。

今回、会議運営に関わらせていただいたことで、メディアを通じて感じていた中国に対する印象とは違った面を感じる事ができ、大変貴重な機会となりました。

皆様、どうも有難うございました。

実行委員会・兼森 信子



TVカメラも入りMBS「ちんぷいぷい」で放映された



今回の受付は来賓、大阪府以外、大阪府、プレスと4つに分かれて担当してもらいました

## ● 友好交流会議を終えて ●

### 2014年日中友好交流会議について

私は、今回、この貴重な第14回日中友好交流会議に参加できることができ、とても光栄に思っております。

この度の日中友好交流会議は役員の方々が役割分担を決められ、それぞれの得意分野でご活躍され、みんなの力で盛況に導かれた会であったと思います。役員の方のうち、お仕事をしながらの方や、また、会長をはじめ、ご高齢の方もいらっしゃいますが、強い情熱と信念を持って取り組まれておられ頭が下がる思いでした。

また、当日は役員の方のみならず井関さんと楊さんご夫妻をはじめ、五大陸の孫さんなど旅行社のエキスパートの方や大阪華僑総会の王遵輝さんと王文美さんの通訳、大阪観光局のお力添え等多くの方の力が大きな成功のひとつだとも思います。

今回の私の役割は、お金の管理と役員の方々のサポートでした。

特に今回は、プレス担当の木村さんのサポートで、今まであまり経験のなかったプレスに携わることができました。そして改めて自治体の力を痛感しました。

当日の受付に関しては、担当役員の方に頼りすぎて、最終確認を怠り、当日走り回りすぎたことを深く反省しています。事前打ち合わせの必要性を痛感しました。

私が交流会議を通じて学んだことは、大阪府日中の情熱と信念をこれからは私たちが引き継いでいかなければならないと強く感じました。

また、通常ご一緒することがないパナソニックの兼森さんや当日ボランティアでご一緒できた井関さん、楊さんご夫妻や孫さんとともにお仕事ができ、とても良い勉強になりました。

貴重な体験を心より感謝いたします。

事務局・柴田 雅代

### “情熱が会議成功のもと”

本号7頁の大阪開催に至る経過を書きながら、この1年、色々とあったなあ、と改めて思い起こしていました。

一貫して強烈な印象を私に与えたのは谷井会長の“情熱”でした。9月1日号の会長の挨拶も「大阪の情熱を結集して日中友好交流会議を成功させよう」でした。正に“情熱”が準備に関係した皆さん、大阪の各方面の関係者にも伝わっていった全員の努力とチームワークに結びつき、会議を成功に導いたのだと感じています。

そうしたエピソードの一つとして、福娘さんに関しての裏話をご紹介します。今回の交流会議について大阪観光局にご相談に行き、幾つか人気のメニューを教えて頂いた中に「福娘」があり、それは良いと採用になりました。「福娘」は大抵、夕方のレセプション等への派遣が多いとのことでしたが、会長は開会式に来てもらって最初に明るく景気付けをしようと。

それからが大変でした。福娘さんは普通の大学生やOLさんで月曜日の朝早くに来てくれるのは2人くらいが精一杯だと。そう、会長に報告しますと、「アカン、もっと頼みこめ」、それから何度もしつこく依頼して1ヶ月半ほど要して漸く5人集めて頂きました。“情熱”が戎さまにも通じたと感じた一瞬でした。

ついでに、福娘さんに関しての蛇足。当日ボランティアの女性が彼女達のお世話をすることになり、無事出番も終わって、私もそろそろ次の会場の準備をしようかと開会式会場を出ると、彼女が真剣な顔つきで、ホテルの中で目を光らせてくれている私服の方に小走りで向かっていました。何事かと緊張して私も駆け寄って聞くと「福娘さん達が、あの服装のまま家に帰ると言うのですが、大丈夫でしょうか？」……ガクッと膝の力が抜けました。警察の方、ご迷惑をおかけしました。

今回、多くの皆さんのお世話になりましたことに改めて御礼申し上げます。この会議を契機として、これから更に絆を深めて、ともに頑張っていきたいと思います。

事務局長・藤井 秀幸

## ● 友好交流会議を終えて ●

### 第14回日中友好交流会議で得られたもの

今回、初めて日中友好交流会議に参加しました。私は2001年の関西大学在学中、中国語や中国文学を学んでいたことから地元熊取町の日中友好協会会員となり、その後、中国人留学生と交流したり、青年交流代表団として訪中したりもしてきましたが、今回の交流会議ほど多数の、日本との友好交流に携わっている中国の方々を知り合う機会は、未だかつてありませんでした。

特に、懇親会（レセプション）の席では、広西チワン族自治区の代表の方々とは様々な会話ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。乾杯前の各種出し物には彼らも興味を惹いた様子でしたし、日中両サイドから盛んに手が挙がった分散会や、日中両言語で朗読した「大阪宣言」が採択された全体会議を含め、個人的には会議全体として「大成功」を収めたのではないかと考えております。

見えないところでのトラブルもあり、大阪府日中はじめ準備に携わった方々には各方面で大変だったことと思いますが、私にとっては多くの日中両国の友好人士と知り合えたこと、旧知の仲間と再会できたこと（懇親会で2002年の青年交流代表団でご一緒した方と同席になりました）、日中各地域の友好交流に関する具体的な取り組みを知れたことなど、得られたものは数えきれません。これらの「縁」を、是非とも今後の日中友好活動に生かしていきたいと考えております。

ありがとうございました。

熊取町日中友好協会会長・林 雅清

### 「大阪宣言」

去る9月22・23日、大阪のリーガロイヤルホテルにて、大阪府日中友好協会主管による第14回日中友好交流会議が開催されました。各方面で冷え切った日中関係を、市民レベルで何とか好い方向へ向かわせようという趣旨のもと、大変有意義な会議であったと思います。

さて、第2日目の「大阪宣言」で、私は日本語での宣言をするという大役を仰せつかりました。主人が、日中両言語で宣言するという案も最後まで残りましたが、様々な方の多数意見で、夫婦で壇上に登らせていただくこととなりました。

これはもうご想像通りでありますけれども、決定後はせめてとちらないように、醜態をさらさないようにという一心で、一所懸命に幾度も練習を重ねました。しかし、繰り返すほどに呼吸の箇所や抑揚・イントネーションも不安に思えてきて、本番、舞台上に立つまで気が気でありませんでした。そこで、少しでもその緊張を和らげようと、主人に相談しまして、義母から譲り受けた着物で舞台上に上がることにしました。実際には数分の出来事なのですが、私にはとても長く濃い時間のように思われました。自席に戻っても暫くは興奮が続いていたように記憶しております。

関係者の皆様には、このような貴重な機会を与えていただきまして、深く感謝しております。この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

今後、日中両国がより好い関係を築いていけますよう心から祈っております。

熊取町日中友好協会事務局次長・林 敦子

### 『文化茶話会』のご案内

日時：11月15日（土） 14：00～16：00

講師：林 雅清氏 熊取町日中友好協会 会長  
京都文教短期大学ライフデザイン学科専任講師

演題：「日中仏教比較—お寺と僧侶の今昔—」

場所：大阪スカウト会館3F 参加費：500円

\*会員でない方もお気軽にお越し下さい。

## ● 友好交流会議を終えて ●

### 成功で得た経験と自信を活動のエネルギーに

私自身はほとんど直接的にお役に立てませんでした。準備委員会、実行委員会に最初から参加して、皆さんの活躍、奮闘ぶりに身近に接して「これが大阪府日中の底力だなあ」と、意を強くしました。

さまざまな外的要因によって開催日、会場などが変更を余儀なくされるなど状況がずっと変化しながら、谷井会長の強力な指導力と的確な指示が役員、会員、ボランティアの皆さんの力を引き出し、成功をもたらせたといえますが、この経験と自信が今後の協会活動の活性化にきつとつながると思います。会議の成功はもとよりですが、これが今回の最大の収穫でなかったでしょうか。

また行政や各種団体、企業から人的なサポートをはじめ、多くの協力が得られたことも今後につながる財産になったと思います。

会議の成功がそのまま日中関係改善への一石になると思うほど楽観的になれないのはもちろんですが、日中双方の参加者たちの笑顔と表情、発言などに接するにつけ、こうした試みの積み重ねが「以民促官」

の力になるのだと、そこに私たちの活動の存在意義があるのだと改めて感じたことでした。

印象的な場面がいくつもありました。

私が参加したのは第一分散会でしたが、双方からそれぞれの地での民間交流の実情や困難、さらには疑問点などについての忌憚のない発言があり、日中友好を願う仲間の存在を心強く感じました。

テーブルイクでの和東茶のサービス、中国の人たちへの記念品、懇談会での青島ビールやケーキなどの無償提供も、交渉に当たったスタッフのがんばりの成果でした。

初の試みである記念講演はヒットでした。公害発生と克服の「先進国」日本の大阪における事例は、地方の指導者の多かった中国側参加者に強い印象を及ぼしたと思います。

中国文学者である林雅清・熊取町日中会長の音吐朗々たるみごとな中国語と敦子夫人によるこれまた初の「大阪宣言」は会議の悼尾を飾るにふさわしい場面でした。

副理事長・中務 武志

## 第14回日中友好交流会議

## ● ご協力いただいた企業 ●

パナソニック株式会社  
三井物産株式会社  
京セラ株式会社  
レンゴー株式会社  
住友電気工業株式会社  
日立造船株式会社  
ダイキン工業株式会社  
カナフレックスコーポレーション株式会社  
株式会社 竹中工務店  
サントリーホールディングス株式会社  
新日鐵住金株式会社  
関西外国語大学  
新関西国際空港株式会社

西日本貿易株式会社  
八木通商株式会社  
荒川化学工業株式会社  
協同組合 関西ファッション連合  
兵庫県貿易株式会社  
株式会社 大西  
ダイセン株式会社  
株式会社 アルファホープス  
株式会社 ユニックス  
大阪国際大学  
株式会社 ロイヤルホテル  
池田泉州銀行  
株式会社 大京